

# 私の一文字

経済懇談会 世話人  
及川 健一郎

丸紅  
常務執行役員



## 「喜び」を積み重ねる

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、及川健一郎経済懇談会世話人にご登場いただきました。

**岡西** 選ばれた「喜」は、上部のつくりが神前の儀式で鳴らしていた鼓の意で、下部の口へんは祝詞を入れる器、つまり神を喜ばせるという語源です。今回は、及川さんご自身が喜びを感じている様子を意識してしたためました。

**及川** この「喜」のように、線対称になっている文字が好きですね。岡西さんの手でどのような変貌を遂げるのだろうか楽しみにしていました。

**岡西** 横画は柔らかく、縦画は力強くということ意識して書きました。人を喜ばせたいという思いが強いようにお見受けしているのですが、何か背景がございますか。

**及川** 新型コロナウイルスの流行をはじめ、ナショナリズムの台頭や国際関係の複雑化などによって、私たち商社の活動フィールドがどんどん小さくなっていく危機感を強く持っています。われわれは1858年の創業から姿形を変えながら続いてきましたが、社会の課題をいち早く察知し、お客さまを主語にして考え、お客さまの課題に寄り添うことが正しい立ち位置だと思っています。

「三方良し」とよく言われますが、無理やり進めると、どこかでほころびが出るかもしれません。三者共に喜んでもらうという考え方が根底に必要です。だから商社で働くには、人を喜ばせることに純粋に喜びを感じられる資質が必

要だと常々思っています。これは世界の国同士でも同様です。皆を喜ばせることが自分の喜びだと思いが世の中になれば、良い方向に向かうのではないのでしょうか。

**岡西** 書をしたためるときにも、どうしたらお相手が喜んでくださるか、人となりから想像を巡らせます。何かお相手の喜びを考える上で意識されていることはありますか。

**及川** やはり自分がしてもらったらうれしいことを、先回りして考えることでしょうか。うまく仕事を進めている人にはそういうマインドセットがあると感じています。例えば、他国訪問時には国旗のバッジを胸元に着けていきますし、お土産でネクタイを頂いたら次に着けていくようにしますが、そんな小さなことでも場が和らぎます。良い仕事は小さな喜びからつながっていきます。その積み重ねが成果になり、会社も家族も幸せになっていくのが一番だと思っています。

**岡西** ご自分の喜びのためにされていることはありますか。

**及川** 年齢を重ねたからかもしれませんが、私自身は人が喜ぶことに幸せを感じるタイプのようなようです。家族や友達といるときも、相手が喜んでくれる場自体を楽しんでいます。

**岡西** お人柄がうかがわれます。最後に、経済懇談会の世話人をされていますが、今後の展望をお聞かせください。

**及川** 経済懇談会は経営者同士がお互いの課題を率直に話せる場ですが、ある種の「青い」議論ができるような場でもあることが刺激的ですし、そのスタンスを大事にし続けていきたいと思っています。



書家  
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。